

第47回加西市公共交通活性化協議会 協議結果

■第47回加西市公共交通活性化協議会の開催状況

○開催日程

令和4年7月27日（水） 10:00～11:30

○開催場所

加西市民会館3階 小ホール

○協議参加者

23名（委員20名 オブザーバー3名）

○傍聴者

1名

■協議結果

○協議事項1 「地域公共交通計画の策定について」

全会一致により承認

■会議の経過

発言者	会議の経過／発言内容
<p>委員</p> <p>委員</p> <p>議長</p> <p>専門委員</p>	<p>1 開会</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 地域公共交通計画の策定について（資料 1 及び第 46 回協議会資料 8）</p> <p>ア 加西市の概況と公共交通の現状（資料 1-1）について （事務局より資料説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P 9 記載のタクシーの運行台数としては、北条神姫タクシー加西営業所は現在配置されているタクシー車両はないため、削除する必要がある。また、(株) はくろタクシー加西営業所は、計画書に記載されている 11 台のうち現在は半数が主に加東市で運行しているため、車両数を変更する必要がある。また、加西市内では自家用有償旅客運送が各地域で始まっているが、継続性があるのかという問題を積み残したままであると認識している。安全輸送を行えるドライバーの確保を含め、加西市内のタクシーの運行状況は先に発言したとおりであることから、自家用有償旅客運送の継続性について議論する必要がある。 ・ (株) はくろタクシー加西営業所に配置されている車両数は 11 台であり、どのエリアで運行するかはタクシー事業者の判断によるものである。これにより、加西市内に営業所を置きながら配置車両の半数が加東市で運行している状況であったとしても、配置車両数の記載は今のままで良いのではないか。 ・ 北条神姫タクシーの表記は削除し、(株) はくろタクシー加西営業所の表記はそのままとする。また、委員が発言された自家用有償旅客運送の継続性については、今後議論していくこととする。 ・ 先ほどの委員の指摘はもっともであると認識している。タクシーはプロドライバーによる安定的で品質の高い輸送ができることが基本となっているが、昨今の状況を踏まえると従来と同じ形での交通サービスを継続的に提供し続けることが難しい状況である。そのため、講習を受けていただいているとはいえ、タクシードライバーを生業としていない方に交通サービスを補完していただくことはやむを得ないのではないか。委員のおっしゃるとおり、今後安定的にサービスを提供できるかということは現在ははっきりしていないため、乗り合いタクシーなどの安定的に利用しやすいサービスをタクシー事業者とも協力しながら導入していくことが重要なのではないか。地域の自主的な輸送かタクシーのどちらかということではなく、その間にタクシー事業者と地域とをうまく組み合わせることで答えをつくり出せるのではないかと思っている。乗り合いタクシーも

	<p>含めて地域の輸送をタクシー事業者に担ってもらうなど、方法は様々あり、現在の地域公共交通サービスが改善されるものを見つけられれば良いと思う。それが、地域公共交通計画のポイントの1つになるのではないかと考えている。</p> <p>イ 各種アンケート調査結果の概要（資料 1-2）について （事務局より資料説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見なし <p>ウ 地域公共交通計画の策定に向けて（資料 1-3）について （事務局より資料説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの取組①」に「利用者はU字回復」と記載されているが、その前には「移動に困っている人たちがいる」と記載されている。この移動に困っている人を救うことが地域公共交通計画の目的である。まずは、利用者のU字回復と同時に移動に困っている人が減少しているか、アンケート調査結果なども踏まえて把握する必要がある。 また、資料の下部に「産業や観光等の他分野との連携」とあるが、よく言われるのは生活交通か観光交通のどちらかといった二者択一のような考え方である。ただ、生活交通を維持していくことは基本であると思うが、その上で観光にも寄与する、或いは観光客に対してきちんとサービスを提供することによって、プラスの効果が得られるような組み合わせを考えてはどうか。
専門委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの取組①」に記載されている「クルマを気軽に利用できない人は全体のうち約3割」という文言について、数値の根拠を伺いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「これまでの取組①」に記載されている「クルマを気軽に利用できない人は全体のうち約3割」という文言について、数値の根拠を伺いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠としては資料 1-1 の P38 に示しているが、平成 22 年近畿圏パーソントリップ調査結果を用いて算出している。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・補足すると、平成 22 年近畿圏パーソントリップ調査対象者のうち、「自動車運転免許証を持っていない人」「世帯に車がない人」を「クルマを気軽に利用できない人」と位置付けている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に加西市内で「移動に困っている」と要望している人数ではないということか。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃるとおりである。平成 22 年近畿圏パーソントリップ調査結果をもとに代表交通手段分担率を集計すると、加西市では全体の約 8 割が自動車利用となっており、約 2 割が徒歩や自転車、バス、鉄道といった他の交通手段を利用している。そのため、加西市は自動車を持っていないと移動がしにくい状況となっているのではと思われる。また、「クルマを気軽に利用できない人」の手段を見る

<p>委員 議長</p>	<p>と、主に送迎をしてもらっており、送迎に対して遠慮や気兼ねしてしまうようなケースでは、トリップを潜在してしまう傾向にある。他市町でも同様の集計を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度にパーソントリップ調査を行っているが、データの公表が地域公共交通計画の策定までに間に合えば、集計結果の差替えは行うのか。 ・パーソントリップ調査結果は、調査をした後に集計ができる状態になるまで時間がかかるため、地域公共交通計画の策定までに差替えが行える状態になるのか不明であるが、可能であれば差し替えたいと思っている。
<p>委員</p>	<p>エ 「地域公共交通計画の策定について」 検討にあたり確認頂きたい点（資料1-4）について (事務局より資料説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に困っている人が多いこと、生活水準で見た時に物価が上がり、年金生活者が多いことを考えると、求められるのは安く利用しやすいサービスである。その中で低コスト、利用しやすい、どの場所でも利用できるサービスをタクシー事業者などと話し合う必要がある。苦しい生活の中で、公共交通を使ってもらえる方法を加西市とタクシー事業者などが歩み寄って考える必要がある。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加西市には10地区あり、それぞれの地区に合った公共交通の確保に努めていると思う。その中で「クルマを気軽に利用できない人」が約3割いるというデータが出ている。また、一方で約1億1千6百万円の助成をしており、多額の助成となっている中でいつまで継続して公共交通を運行できるのか、という心配な面もある。また、各地区で行っている取組の中で運転手の確保や車両の維持などの問題を抱える中で継続できるのか懸念している。日吉地区で運行されている乗り合いタクシーは、このような状況の中で価値があるものと思っている。車両の確保や体制など、地域ごとに考える必要はあるが、乗り合いタクシーであれば財政負担も軽くなり、移動手段の確保もできて良いのではないかと考えている。神姫バスのバス路線と競合しないように考える必要もあるが、バス停までの移動では利用価値が低いことから、上手く工夫できないか考える必要がある。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西脇市内でも乗り合いタクシーを運行しており、1回400円となっており、高齢者や障がい者の方は200円で市内の移動が可能となっている。西脇市の乗り合いタクシーは予約型となっており、タクシー会社が請け負って、市役所内で受付を行っている。自動車を持っている、タクシーは高い、という理由から利用しないという方もいるが、実際に自動車の維持費はリースで最低でも月々約1～2万円必要と言われているが、その意識がなくタクシーは高いと言われている。

議長	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車の維持には年間約 60 万円必要である。乗り合いタクシーは私自身導入の手伝いをしているが、乗り合いタクシーが公共交通の万能の特効薬かと言われるとそうではない。鉄道やバスなどの幹線交通を維持した上で端末の交通としてデマンドや乗り合いタクシーがあるが、向き不向き、適材適所がある。適材適所を見極めることが本来の地域公共交通計画である。利用者が分かっていると利用してくれないなど、現場レベルで解消しなければいけないことがあるため、地域に合った仕組みを作る必要がある。
専門委員	<ul style="list-style-type: none"> ・議長が発言された適材適所について、今の交通サービス、使い方では色々な所で非効率がある。他の交通手段に乗り換えたいが待ち時間が発生する、といったことは事前に調整しておくことで解消できることである。また、個別にタクシーを利用するとそれぞれに距離運賃が発生するが、時間運賃として誰かが借り上げて皆で利用するという方がより割安になり、かつ公定幅運賃として支払うことができる。タクシー会社も利用者からの運賃で営業していることから、最低賃金は確保しなければならない。今ある非効率や各事業者だけでは上手くいかないことを加西市全体で調整、連携することでより便利になるのではないかと、ということも地域公共交通計画で検討すべきことだと思う。
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・本協議会の議論の中で思ったことを 2 点報告する。1 点目は、「検討の方向性」に掲げている「移動に困っている人に対する手段の確保の検討」について、4 月から開始している日吉地区乗り合いタクシーは区域運行となっており、公共交通が面的に広がることから公共交通不便地域の解消に繋がるため、効果的と思われる。2 点目は、移動に困っている人の話になると高齢者が出てくるが、高齢者だけでなく子どもの送り迎えをマイカーでしている家族も大変だという話を他の地域で聞くため、そういったところもスポットを当ててみてはどうか。
専門委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの送迎に関しては親としては負担である。しかし、日吉地区乗り合いタクシーのようなものができたら良い、というわけでもない。乗り合いタクシーも大変な努力の上で運営されている。つまり、それぞれの方が様々な負担を負って生活している状態である。そういった負担を拾い上げて軽くすることで暮らしが楽になると思われるため、これらの負担に目を向けて地域公共交通計画を作りたいと考えている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・加西市では自家用有償旅客運送として地域主体型交通が増えているが、運行を継続していくためにはモチベーションの維持が大事である。過去に、自主的な輸送でのモチベーション維持の調査を行った。これらの担い手に対してモチベーション維持に必要なものとして「賃金改善」「待遇改善」「利用者からの感謝の言葉」などを選択肢に挙げた結果、「利用者からの感謝の言葉」がモチベーション

	<p>維持に一番効果があるという結果が出た。基本的にはボランティアで行われているため、利用者からだけでなく地域の人や行政からの声掛けが大事である。ドライバーに声を掛けるだけで気持ちが上向きになるため、ぜひ声を掛けて欲しい。また、地域公共交通への財政支出について、本当に価値のある投資なのか確認する必要がある。この価値を把握するための手法であるクロスセクター効果の算出を行ったのは加西市が初めてである。住民の方々にも公共交通の価値を示す必要があるため、地域公共交通計画に結果を示したいと思っている。</p> <p>オ 計画策定までのスケジュール（資料 1-5）について （事務局より資料説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見なし <p>カ 「加西市地域公共交通網形成計画（平成 30 年 3 月）」のおさらい（抜粋版）（資料 8-1）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見なし <p>キ 地域公共交通計画策定にかかる見直しポイント（資料 8-2）について （事務局より資料説明）</p> <p>専門委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P 5 に示されている「法華口駅列車行違い交差設備」の文言について、「交差設備」という表現で正しいのか。 <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「交差設備」で問題ない。 <p>ク 地域公共交通計画策定までの検討フロー（資料 8-3）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見なし <p>ケ 各種アンケート調査等の概要（資料 8-4）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見なし <p>コ 「計画の方向性」の見直し（案）（資料 8-5）について （事務局より資料説明）</p> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P 6 の「めざすべき公共交通ネットワーク【次期計画】」の凡例に「乗り合いタクシー」を示した方が良いのではないか。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「乗り合いタクシー」を凡例内に示すこととする。 <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P 5 の「加西市における公共交通ネットワークの階層構造」内にある「地域内交
--	---

<p>事務局 議長</p>	<p>通」の文章内に「1時間に1本以上の各公共交通軸まで行けるような公共交通」とある一方で、同ページ上部の「めざすべき公共交通サービスの内容」内にある「ダイヤ・本数」では「本数が多いことが望ましいが、本数が少なくても行きたい時間にダイヤが設定されている」と表記されている。ダイヤの本数の考え方として、1時間に1本運行していなくても需要に見合う本数となり得る場合もあると思われることから、「1時間に1本以上」という文言はなくても良いのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文言の表記の仕方については、今後検討していく。 ・ 今後の地域公共交通計画の根幹に関わる重要なことであるため、先ほどの提案は非常に重要である。計画年度内に目標が達成できなくても目標達成のために皆で頑張るための覚悟としての目標数値であると認識している。今後議論を進めながら決めていくこととする。
<p>専門委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動に困っているかどうかは運行頻度だけで決めることではないと認識している。そのため、ここでは「1時間に1本以上」と示しているが、何で測れば良いのかということも含めて今度検討していく必要がある。
<p>オブザーバー</p>	<p>3 その他</p> <p>(1) 鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月25日(月)に「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」の提言が発表されたところ、輸送密度1,000人未満など、基準を満たしていないローカル鉄道は、一律見直しを含めた検討が必要であるというような捉え方をされることがあるが、事実と異なる。あくまで目安であり、基準に当てはまれば必ず検討対象になるものではない。また、加西市の北条鉄道については、報告書内でも好事例として取り上げられている。北条鉄道の取組は非常に重要であると考えており、観光面や産業面と連携して活性化に繋げていただきたいと思っている。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北条鉄道は、輸送密度はそれ程高くないが、住民の方々は北条鉄道を大事にしており、北条鉄道の廃線を希望する人はほとんどいないと思われる。また、北条鉄道の各駅のトイレも是非見ていただきたい。これらの駅の整備については地域の人たちが自分達のお金で整備している。北条鉄道は非常に重要な鉄道であり、国の中でもトップランナーである。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ お褒めの言葉を頂き、お礼を申し上げる。付け加えさせていただくと、7月22日(金)に庄原市芸備線・木次線利用促進協議会の委員12名の方が北条鉄道に

<p>議長</p> <p>オブザーバー</p>	<p>視察に来られた。北条鉄道の取組やふるさと納税について説明し、ご納得頂きお帰りいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加西市が、事前に庄原市とオンラインでヒアリングを行うなど友好関係を築いている。 ・「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」の話が出たため、兵庫県の状況を報告する。国土交通省より報告書が公表される前に、JRが輸送密度 2,000 人未満の区間を公表しており、これを受けて兵庫県としても力を入れる必要があると認識し、対象区間について議論を深めていくために、6月24日（金）に全体会議を行った。現在、路線ごとにワーキングを立ち上げており、7月25日（月）はJR姫新線、7月26日（火）はJR加古川線と会議を行った。利用促進が難しいところもあるが、まずは路線を残すことや利用を増やすことから議論を始めている。JR加古川線においては北条鉄道に繋がる路線であることから関心を持っていただきたいと思っている。 <p>(2) 次回協議会の開催について</p>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の協議会は10月頃の開催を予定しており、アンケート調査結果や地域公共交通計画の素案等を報告し、審議頂きたいと思っている。 <p>(3) 第46回協議会での協議結果、協議会議事録について</p>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にお渡ししている前回の協議会での協議結果、議事録の修正があれば、8月5日（金）までに事務局まで連絡頂くよう、お願い申し上げます。 <p>4 閉会</p>